

(こくさいか山口 2006年10→12月号掲載記事)

～下関市小学生海外派遣研修レポート～

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
礪田 将史

2006年8月23日～8月26日まで、下関市の小学生9名が下関市の姉妹都市である中国青島市を訪問しました。今回はその模様を報告します。

この研修は単なる観光旅行ではなく、下関市の小学生を代表して青島市人民政府、青島日本人会、山口銀行青島市分行の表敬訪問をはじめ、現地小学校との交流会などを通じ、国際感覚を身に付けた次世代の人材育成を目的としています。では、その研修の一部を少しご紹介しましょう。

8月23日に飛行機で青島入り。青島市に盛大に歓迎していただきました。

翌24日、青島市人民政府（現地の市役所にあたります）表敬訪問。市政府の副書記さんと対面し、生徒たちは緊張の連続。それでも一人一人が事前に練習していた中国語での自己紹介を立派に披露。これには副書記も驚かれ、「いつ勉強したのですか、中国語は難しいですか？」と、しきりに質問していらっしゃいました。

そして、彼らが一番楽しみにしていたのが、同世代の小学生との交流授業でした。青島の上清路小学校と青島日本人学校の訪問です。

上清路小学校は通常の科目履修だけでなく、ダンス、歌、スポーツなど幅広い分野で特に力を入れている学校です。私たちの訪問時にもダンスの披露があり、大人顔負けの迫力ある演技に「とても小学生とは思えない。」と生徒たちはびっくりしていました。



そして、翌25日は、青島日本人学校の訪問です。小学部、中学部あわせて62名のこの小さな学校は、日本の文部科学省が認可した正式な日本の学校で、日本の教科書を使って勉強しています。生徒たちはこんな異国の地で同世代の日本人と会うのがよほどうれしかったらしく、中国切り絵の交流授業が終わっても子供たちの会話と笑い声が教室いっぱいに響いていました。どちらの学校でも下関の小学生がお礼に「よさこいソーラン節」の踊りと「さくらさくら」の合唱、合奏を披露しました。彼らは市内各所の小学校であるため、みんなが集まって練習する時間を作るのは難しかったのですが、少ない時間で皆一生懸命に練習しました。結果、どの小学校でも大変な拍手と喝采を受けました。どの子の顔にも一つのことを成し遂げたという満足感に満ちあふれていました。

その後、市内各所の史跡を観光し、彼らの初めての海外研修はこうして幕を閉じました。

今回の訪問が成功したのは、青島市政府の協力をはじめ、青島日本人会、そして地元下関市の企業である山口銀行様のお心遣いあってのことでした。訪問の打診の際にも快く応じてくださり、小学生たちも「青島に日本と同じような銀行や会社があり、外国でも日本の人々が一生懸命に働いている。」という、ごく当たり前のことに新鮮な驚きと感動を覚えていたようでした。

最後に、「もう1週間は青島にいたい。」と彼らがもらした感想を聞き、この研修が彼らの今後の人生にきっといい影響を与えるだろう、と確信して今回の報告を終えたいと思います。